

読書感想文の書き方



夏休みの宿題はもちろんのこと、国語の授業で書かされることもある読書感想文。多くの小学生が苦勞しているのではないのでしょうか。しかし、読書感想文は、

本を読んだ際の考えを深められる効果があり、「**考える読書**」とも言われています。また読書感想文は読書の記録でもあります。感想文を読み直せば、感動した自分にいつでも再会できるといえるでしょう。そんないつまでも残しておきたい読書感想文を書くためのヒントをまとめていきます。

① まずは本選びから

好きな本、読みたい本を選びましょう。今どきネットで注文するほうが容易ですが、本屋さんに行って手に取って選ばせてください。どんな本でも感想文を書くことはできます。

では、読書感想文の書きやすい本とはどういった本でしょう。それは、**子どもが感想もしくは意見が言いやすい本、子どもとの共通点がある本**です。**自分の体験談と対比できる**と書きやすいです。

② 付箋を付けながら読み進めましょう

読書感想文が苦手な子は、読書自体苦手な子も多いです。すると、印象に残ったシーンについて、読み返そうとしてもどこに書かれていたか迷いがちです。そこで、本を読みながら、**感動したシーンや好きなセリフ、心が動いたページに付箋を付けておく**と後々便利です。

③ 付箋の内容を深掘りします

「なぜ、ここで感動したのか」「どうして、そこが気になるのか」「もし自分だったらどうするのか」など、一つ一つ深掘りします。低学年ならば、親子で対話をしながらたくさんの言葉を引き出してあげましょう。高学年ならば、同じことを自問自答で進めてみることもできると思います。

④ 文の構成を考えましょう

はじめ（この本を選んだきっかけ・あらすじ）、なか（付箋部分2～3こ・似たような体験や・自分だったらどうするか）、おわり（自分の考え・本から学んだこと）という流れになります。あらすじ部分はダラダラと書くことのないよう『いつ/どこで/だれが/何をしたか』簡単に短くまとめます。

⑤ 骨組みをふくらませて書きましょう

③を参考に**登場人物と自分を比べたり、自分の気持ちを詳しく書いたり**しましょう。本に出てきた地名や作者のことを調べて書いてもいいでしょう。

⑥ 題名は最後に考えます

自分が書いた感想文の内容にあった題名を考えます。**「読んでみたい!」と思わせたら完パキ**です。

物語内の出来事と自分が体験した同じようなことを見つけるのに苦勞する子がいます。今まで自分がどのような体験をしてきたのか、似ている体験はどんなことだったのかが思い出せなかつたり分からなかつたりするからです。その結果、戸惑ってしまうのではないのでしょうか。この戸惑いを解消するためには、普段から多くの体験をさせてあげましょう。**体験したことが多ければ多いほど、読んだ本の中に書かれていることと同じようなこと、似ていることが探しやすくなる**からです。

